

ストレッチによる事故

本会では「利用者がストレッチ中に痛みを訴えたため病院に通ってもらっている」といった相談を受けることがあります。行ったストレッチ内容や受傷箇所はさまざまですが、相談数が比較的多い2つの内容を紹介します。

○ 肋骨骨折

肋骨骨折はうつ伏せの姿勢で背中を施術しているときに発生することが多い症例です。ストレッチに起因する場合は、利用者が仰向けに寝た状態で片膝を曲げ、曲げた膝を胸に近づけることで臀部や大腿後面を伸ばす動きで発生しています。膝を胸に近づけるときに大腿前面が肋骨を圧迫することなどが原因と思われる。

他に、利用者が頭の後ろで両手を組み、施術者が後ろから抱えあげるような施術によって発症した事例もあります。

本会の集計ではストレッチと後述の事故事例と合すると肋骨骨折の原因の1/6を占めます。

○ コンパートメント症候群

コンパートメント症候群はストレッチ中に痛みが走った、またはプチッと音がしたなどの訴えから始まり、強い痛み・腫れ・知覚障害が特徴的な症状です。広範囲にわたる内出血を伴う場合もあります。本会はこの2年間で大腿部・下腿部それぞれ複数回相談を受けておりますが発症者の全ては高齢者でした。原因となったストレッチはさまざまな種類で特定のものではありませんので十分な注意が必要です。

ストレッチ以外にもマッサージや鍼が原因で発症したとの事例があります。

コンパートメント症候群は前腕・下肢・大腿のように複数の筋肉がある部位で発症しやすく、いくつかの筋肉ごとに骨や筋膜などで囲まれた区画（コンパートメント）が、骨折や打撲などの外傷が原因で筋肉組織などの腫脹が起こり、区画内圧が上がった結果、区画内の筋肉・血管・神経などが圧迫されることで発症します。区画内圧が一定以上であると筋膜切開が必要になり、放置しておくと手足が壊死し、切断を余儀なくされる重篤な状態になります。治療は半年以上要するものが多いようです。

利用者が高齢の場合、聞きなれない横文字の傷病名のためか、医師から「筋肉が傷ついている」と言われたことをだけを記憶し、傷病名を把握していない場合があります。施術者はこの記憶に基づいた説明を聞いただけでは正確に状況を把握できず、強い施術は行っていないので大事にはならないとの思いから利用者が大きめに痛まっているのではないかと疑ってしまうこともあるようです。

身体機能の低下を防ぐ手段のひとつとしてストレッチは有効です。気持ちいいと思うレベルでも効果は得られます。一方で痛いのを我慢することでより効果があがると思っている利用者もいますので、我慢する必要がないことを十分に説明した上で、強さを確認するときのお声かけを変えてみるなどの工夫をされてはいかがでしょうか。

NOTE POINT

利用者から提出を受けた診断書に筋挫傷・内出血（血種）とのみ記載がある場合もコンパートメント症候群が疑われるケースがまれに見受けられますので注意が必要です。

JHA NEWS

☆本会ではさまざまな施術事故の症状に対して状況に合わせたアドバイスを行っております☆

・施術トラブル/クレーム対応無料電話相談・JHANewsの発行・会員保障制度など
ご希望の方には病氣やケガで働けないときの支えとして所得補償保険を提供しています（別途保険料が必要）

国家資格者

会員種別

正会員A 準会員

すべての治療家、施術家に
安心・安全を提供します

入会金無料

民間施術者

会員種別

正会員B

【ご不明な点・詳細は、お気軽にお問い合わせください】



一般社団法人 日本治療協会

Japan Healing Association

URL: <http://www.jha-shugi.jp>

E-mail: info@jha-shugi.jp

◎ JHANewsのバックナンバーはホームページでご覧いただけます ◎

TEL: 03 (6281) 8188

FAX: 03 (6281) 8187

TEL 受付: 10:00 ~ 18:00 (平日) FAX 受付: 24時間年中無休

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町4-4-11 日本橋SSビル2F

